

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 8 月 29 日 (2013.8.29)

【公開番号】特開 2012-185214 (P2012-185214A)

【公開日】平成 24 年 9 月 27 日 (2012.9.27)

【年通号数】公開・登録公報 2012-039

【出願番号】特願 2011-46540 (P2011-46540)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

G 0 2 F 1/13357 (2006.01)

F 2 1 S 2/00 (2006.01)

F 2 1 Y 101/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/02 B

G 0 2 F 1/13357

F 2 1 S 2/00 4 3 1

F 2 1 Y 101:02

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 7 月 11 日 (2013.7.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支持体と、

前記支持体の一方の面に設けられた易接着層と、

前記支持体の他方の面に設けられた透光性樹脂からなる透明層を備え、

前記透明層は、少なくとも体積平均粒子径の異なる 2 種類の透光性粒子を含み、

前記透光性粒子の総和 S が、 $30 \text{ mg/m}^2 \leq S \leq 500 \text{ mg/m}^2$ を満たすことを特徴とする光学積層フィルム。

【請求項 2】

前記透光性粒子として、最も体積平均粒子径の小さな透光性粒子と最も体積平均粒子径の大きな透光性粒子の体積平均粒子径の差を $1 \mu\text{m}$ 以上とすることを特徴とする、請求項 1 記載の光学積層フィルム。

【請求項 3】

前記透光性粒子全体の体積平均粒子径 r が、

$1.0 \mu\text{m} \leq r \leq 3.0 \mu\text{m}$

を満たすことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の光学積層フィルム。

【請求項 4】

前記透明層の平均膜厚 t が前記透光性粒子全体の体積平均粒子径 r に対し、

$r/4 \leq t < r$

を満たすことを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の光学積層フィルム。

【請求項 5】

ヘイズ値が 20% 以上 60% 以下を特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の光学積層フィルム。

【請求項 6】

前記透光性粒子の少なくとも一つの体積平均粒子径のCV値が30%以下であることを特徴とする請求項1から5のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項7】

前記透光性粒子の少なくとも一つの体積平均粒子径が1μm未満であることを特徴とする請求項1から6のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項8】

前記透明層が、支持体側から第1の透明層、及び第2の透明層の2層からなることを特徴とする請求項1から7のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項9】

前記第2の透明層がシリカ系化合物から形成される無機層である請求項8に記載の光学積層フィルム。

【請求項10】

前記透明層は、電子導電により導電性を発現する金属酸化物粒子及びπ電子共役系の導電性ポリマーのいずれかを含み、前記透明層の表面抵抗が $10^{12}\Omega/\square$ 以下である請求項1から9のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項11】

前記易接着層は、電子導電により導電性を発現する金属酸化物粒子及びπ電子共役系の導電性ポリマーのいずれかを含み、前記易接着層の表面抵抗が $10^{12}\Omega/\square$ 以下である請求項1から10のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項12】

前記易接着層上にレンズ層をさらに備える請求項1から11のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項13】

前記透明層の10点平均粗さRzが、 $0.5\mu\text{m} < Rz < 1.0\mu\text{m}$ を満たす請求項1から12のいずれか1項に記載の光学積層フィルム。

【請求項14】

請求項1から13のいずれか1項に記載の光学積層フィルムを搭載する表示装置。